

Veritas NetBackup™ リリースノート

リリース 8.2

マニュアルバージョン 2

VERITAS™

Veritas NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2019-07-22

法的通知と登録商標

Copyright © 2019 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供

されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 8.2 について	9
	NetBackup 8.2 のリリースについて	9
	NetBackup の最新情報について	10
	NetBackup サードパーティの法的通知について	10
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	11
	NetBackup の新しい拡張と変更について	11
	NetBackup 8.2 の新機能、変更点、拡張機能	11
	NetBackup 8.2 でサポートされる外部認証局の証明書	13
	NetBackup 管理コンソールからの外部セキュリティ証明書の構成	14
	NetBackup は外部証明書ソースとしてファイルベースの証明書と	14
	Windows 証明書ストアをサポート	14
	スマートカードまたはソフトウェア証明書による NetBackup Web UI サ	14
	インインのサポート	14
	1 秒間に開始できるバックアップジョブ数の増加	15
	圧縮率と重複排除率が MSDP ストレージに対して個別に報告される	15
	ようになりました。	15
	NetBackup 8.2 の RESTful API	15
	新しい API キー機能による API とコマンドでのユーザー認証	17
	NetBackup 8.2 のサポートの追加および変更点	17
	NetBackup ライセンスの機能拡張	20
	NetBackup での NAT のサポートについて	20
	NetBackup 8.2 サーバーからの BMR クライアントのリストアでは	21
	NetBackup CA が署名した証明書が必要	21
	update_clients スクリプトをクライアントのプッシュに利用できなくな	21
	りました	21
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド	21
	BigData ポリシーでの OpenStack の作業負荷の保護	21
	新しく追加されたインストール前チェック	21
	UNIX でのインストール時の RBAC ロールの割り当て	22
	メディアサーバーのインストールおよびアップグレードの機能強化	22

メディアサーバーをアップグレードするための VxUpdate のサポート	23
インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するか、NetBackup 8.2 にアップグレードする	23
証明書失効リスト (CRL) に対するクラウドプロバイダの証明書の検証	23
新しいクラウドストレージに対するカスタムオブジェクトのチャンクサイズの構成	24
NetBackup Cloud 構成サービスの変更	24
古いクラウドストレージメディアサーバーをサポートするための新しいパラメータ (CSSC_ALLOW_LEGACY_AUTH) の追加	24
Amazon Snowball と Amazon Snowball Edge を使用する NetBackup でクラウドにデータのバックアップを作成する	25
自動イメージレプリケーション (AIR) とターゲット AIR で CloudCatalyst ストレージサーバーのサポートを開始	25
統合されたスナップショット管理の拡張機能	25
cscconfig コマンドユーティリティに追加された新しいオプション (reinitialize)	26
VMware 向けの NetBackup の機能拡張	27
NetBackup による RHV (Red Hat Virtualization) の保護	28
インスタントアクセスの新機能	28
VMware、RHV、Hyper-V リソースのグローバルリソースの制限の変更	28
Nutanix AHV 仮想マシンのリカバリプロセスの強化	29
NetBackup は予定されている Nutanix AHV プラグインを通じて Nutanix AHV のアクセラレータのサポートを導入	29
Microsoft SQL Server エージェントの機能強化	29

第 3 章

操作上の注意事項	31
NetBackup 8.2 の操作上の注意事項について	31
NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	32
Linux デーモンのシャットダウンの問題	32
ネイティブインストールの要件	32
NetBackup 8.2 と SUSE 15 のインストールの問題	33
NetBackup 8.2 と RHEL 8 のインストールの問題	33
NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある	34
インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないください	34
HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて	34
NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	34

NetBackup マスターサーバーが btrfs ファイルシステムでサポートされない	35
NBAC が存在する環境で非管理者ユーザーがリソース制限を読み取りまたは更新できない	35
メディアサーバーとバックアップホストは BigData ポリシーと同じ NetBackup バージョンを使用する必要がある	35
BigData ポリシーを使用する作業負荷のバックアップが失敗する インスタンスの再作成が失敗した場合でも OpenStack リストアジョブが正常に実行される	36
IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項	36
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	36
Web UI から NetBackup 管理コンソールセッションを終了するとユーザーがログアウトされない	37
NetBackup Web UI セッションを終了してもユーザーがすぐにログアウトされない	37
NetBackup 8.2 がサポートするアクセス制御方式 リモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、「操作がタイムアウトしました」というメッセージが表示される	38
X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある	38
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する	39
NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する	39
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、 NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する	39
NetBackup API の操作上の注意事項	39
パーセントエンコードされた URL を使用して NetBackup API を呼び出す必要がある	40
再開されたバックアップまたはスナップショットジョブが失敗した場合には、ジョブイニシエータ ID が NetBackup のジョブ API の応答に表示されなくなる	40
NetBackup クラウドの操作上の注意事項	40
OpenStack バックアップジョブがエラー 6619 で失敗する 自動ディザスタリカバリで AWS VM のインポートの前提条件を満たした VM をリカバリする	40
自動 DR サーバーでインポートおよび recoverec2 ジョブが失敗する	41
Windows OS が搭載された AWS EC2 インスタンスを使用するための管理者パスワードを取得できない	41
CRL を使用した証明書失効チェックは Veritas Access クラウドストレージでサポートされていない	42

SSL がオフの場合、ストレージサーバーに CRL の正しくない値が表示されることがある	42
NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項	42
CloudPoint 2.x のメッセージが ISM では英語になる	43
Microsoft Azure の作業負荷のイメージのクリーンアップが失敗することがある	43
NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項	43
NetBackup for Hadoop の操作上の注意事項	43
NetBackup 重複排除に関する注意事項	44
MSDP KMS 暗号化を構成するときにダイアログボックスが応答しなくなる	44
NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	44
データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート	45
特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする	45
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	46
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある	46
NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートの操作上の注意事項	47
NetBackup クライアントの nbftclnt プロセスを停止できない	47
NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項	47
HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートが状態コード 4213 で失敗する	47
指定した時点へのロールバック後のスナップショットの削除	47
スナップショットからのインデックス操作でスナップショットの内容がカタログに正確に入力されない	48
NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	48
NetBackup for VMware の操作上の注意事項	48
NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項	50
付録 A NetBackup ユーザーの SORT について	52
Veritas Services and Operations Readiness Tools について	52
SORT の新規インストールのための推奨手順	53
SORT のアップグレードのための推奨手順	57
付録 B NetBackup のインストール要件	60
NetBackup のインストール要件について	60
NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	62
NetBackup 8.2 のバイナリサイズ	65

付録 C	NetBackup の互換性の要件	69
	NetBackup の互換性リストと情報について	69
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	70
付録 D	他のNetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	72
	NetBackup の関連マニュアルについて	72

NetBackup 8.2 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.2 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 8.2 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.11 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 8.2 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 8.2 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.52 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の

最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、**NetBackup Appliance 3.1** は **NetBackup 8.1** を基盤としています。この開発モデルにより、**NetBackup** 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる **NetBackup** リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。**NetBackup** アプライアンスを利用する場合、実行する **NetBackup** アプライアンスバージョンの『**NetBackup** リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な **NetBackup** の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の **NetBackup** 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の揭示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。**NetBackup** に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『**NetBackup** サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 8.2 の新機能、変更点、拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

p.9 の「[NetBackup 8.2 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.69 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 8.2 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 8.2 の新機能、変更点、および機能強化は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

新機能

- 「NetBackup 8.2 でサポートされる外部認証局の証明書」
- 「NetBackup 管理コンソールからの外部セキュリティ証明書の構成」
- 「NetBackup は外部証明書ソースとしてファイルベースの証明書と Windows 証明書ストアをサポート」
- 「スマートカードまたはソフトウェア証明書による NetBackup Web UI サインインのサポート」
- 「1 秒間に開始できるバックアップジョブ数の増加」
- 「圧縮率と重複排除率が MSDP ストレージに対して個別に報告されるようになりました。」
- 「NetBackup 8.2 の RESTful API」
- 「新しい API キー機能による API とコマンドでのユーザー認証」

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 8.2 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 8.2 のサポートの追加および変更点」
- 「NetBackup ライセンスの機能拡張」
- 「NetBackup での NAT のサポートについて」
- 「NetBackup 8.2 サーバーからの BMR クライアントのリストアでは NetBackup CA が署名した証明書が必要」
- 「update_clients スクリプトをクライアントのプッシュに利用できなくなりました」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」
- 「BigData ポリシーでの OpenStack の作業負荷の保護」

インストール、アップグレード、および構成の変更点と拡張機能

- 「新しく追加されたインストール前チェック」

- 「UNIX でのインストール時の RBAC ロールの割り当て」
- 「メディアサーバーのインストールおよびアップグレードの機能強化」
- 「メディアサーバーをアップグレードするための VxUpdate のサポート」

クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するか、**NetBackup 8.2** にアップグレードする」
- 「証明書失効リスト (CRL) に対するクラウドプロバイダの証明書の検証」
- 「新しいクラウドストレージに対するカスタムオブジェクトのチャンクサイズの構成」
- 「**NetBackup Cloud** 構成サービスの変更」
- 「古いクラウドストレージメディアサーバーをサポートするための新しいパラメータ (CSSC_ALLOW_LEGACY_AUTH) の追加」
- 「**Amazon Snowball** と **Amazon Snowball Edge** を使用する **NetBackup** でクラウドにデータのバックアップを作成する」
- 「自動イメージレプリケーション (AIR) とターゲット AIR で **CloudCatalyst** ストレージサーバーのサポートを開始」
- 「統合されたスナップショット管理の拡張機能」
- 「**csconfig** コマンドユーティリティに追加された新しいオプション (reinitialize)」

仮想化の変更点と拡張機能

- 「**VMware** 向けの **NetBackup** の機能拡張」
- 「**NetBackup** による **RHV (Red Hat Virtualization)** の保護」
- 「インスタントアクセスの新機能」
- 「**VMware**、**RHV**、**Hyper-V** リソースのグローバルリソースの制限の変更」
- 「**Nutanix AHV** 仮想マシンのリカバリプロセスの強化」
- 「**NetBackup** は予定されている **Nutanix AHV** プラグインを通じて **Nutanix AHV** のアクセラレータのサポートを導入」

データベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「**Microsoft SQL Server** エージェントの機能強化」

NetBackup 8.2 でサポートされる外部認証局の証明書

Veritas は外部認証局証明書のサポートを導入しました。この変更により、ホストの検証とセキュリティのため、**NetBackup** 認証局の代替手段が提供されます。PEM、DER、P7B 形式の証明書をサポートしています。

NetBackup の外部 CA サポートおよび外部 CA 署名証明書について詳しくは、次のリソースを参照してください。

- ビデオ: [外部認証局 \(CA\) 署名証明書の使用NetBackup](#)
- 『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup 8.2 の外部認証局の制限事項

- UNC パスまたはネットワークドライブの割り当てが含まれている外部認証局の仕様は、リモートインストール方式を使用する Windows ホストでは失敗します。リモートインストールを実行する Windows ホストでは、外部 CA 証明書仕様に UNC パスやネットワークドライブの割り当てを使用できません。リモートインストール方式には、VxUpdate とセットアップウィザードのプッシュインストールオプションが含まれます。UNC パスまたは割り当てられたネットワークドライブの使用を試みると、パスにアクセスできないため、事前チェックとインストール操作が失敗します。

NetBackup 管理コンソールからの外部セキュリティ証明書の構成

新しい配備ポリシーを追加したり既存の配備ポリシーを変更したりするときに、NetBackup 管理コンソールから外部 CA が署名した証明書を構成できるようになりました。外部 CA が署名した証明書は、NetBackup CA 以外の CA によって署名されています。[配備ポリシーの変更 (Change Deployment Policy)] ダイアログボックスに新たに[セキュリティ (Security)] タブが加わり、このタブでセキュリティ証明書を構成できます。

詳しくは、『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。

NetBackup は外部証明書ソースとしてファイルベースの証明書と Windows 証明書ストアをサポート

NetBackup 8.2 では、信頼できる認証局 (CA) が発行した X.509 証明書を使用できます。NetBackup は外部証明書ソースとしてファイルベースの証明書と Windows 証明書ストアをサポートしています。

クラスタマスターサーバーのセットアップでは、外部証明書ソースとして Windows 証明書ストアはサポートされていません。

詳しくは『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』の「NetBackup での外部 CA のサポートについて」の章を参照してください。

スマートカードまたはソフトウェア証明書による NetBackup Web UI サインインのサポート

セキュリティ管理者は、共通アクセスカード (CAC)、個人 ID 検証 (PIV) カード、またはデジタル証明書によるサインインを NetBackup Web UI ユーザーに許可できます。

1 秒間に開始できるバックアップジョブ数の増加

NetBackup では、1 つのマスターサーバードメインで 1 秒間に複数のバックアップジョブを開始できるようになりました。1 つのクライアントで 1 秒間に 1 つのジョブしか開始できないという制限は引き続き残ります。ただし、1 秒間に異なるクライアントから複数のジョブを開始できるようになりました。構成によっては、特定の期間に以前より大幅に多いバックアップジョブを開始でき、その結果、システムのパフォーマンス動作が変わる場合があります。一部の環境では、最適なパフォーマンス動作を実現するため、いくつかの構成設定を変更する必要があります。

圧縮率と重複排除率が MSDP ストレージに対して個別に報告されるようになりました。

NetBackup は MSDP のストレージ消費について、圧縮率と重複排除率のレポートを個別にサポートするようになりました。

詳しくは、『[NetBackup Deduplication ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup 8.2 の RESTful API

NetBackup 8.2 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

NetBackup API のマニュアルは次の場所にあります。

- マスターサーバー上

API は、マスターサーバー上の YAML ファイルに格納されています。

`https://<master_server>/api-docs/index.html`

API は Swagger 形式で記述されています。この形式では、コードを確認し、API の実際の呼び出しを実行して機能をテストできます。Swagger API を使用するには、マスターサーバーと API にアクセスする適切なセキュリティ権限が必要です。

注意: ベリタスは、開発環境でのみ API をテストすることをお勧めします。Swagger ファイルから実際の API の呼び出しを実行できるため、本番環境では API をテストしないでください。

- SORT 上

NetBackup API のマニュアルは、SORT でも入手できます。

[\[HOME\]](#)、[\[ナレッジベース \(KNOWLEDGE BASE\)\]](#)、[\[文書 \(Documents\)\]](#)、[\[製品バージョン \(Product Version\)\]](#)、[\[8.2\]](#)

[API リファレンス (API Reference)]の下を参照します。『はじめに』のマニュアルには、NetBackup API の使用に関する背景情報が記載されています。API YAML ファイルも参照できますが、実用的ではありません。SORT 上のマニュアルからは API をテストできません。

メモ: NetBackup アクセス制御 (NBAC) が有効になっている環境では、NetBackup API はサポートされません。

NetBackup 8.2 には、次の新しい、機能強化された API が含まれています。

- ジョブ API: 進捗ログおよび個々の試行のログを含む
- 即時検出: vCenter または RHV マネージャで検出を手動で開始する機能を提供
- イメージ API: コンテンツの表示、有効期限の管理、プライマリコピーの変更、高速インポートの機能を CloudCatalyst に提供
- VM サーバーのクレデンシヤル管理: クレデンシヤルを確認して削除する機能を提供
- VM サーバーの構成管理: リソースの制限とプロキシホストの構成を含む
- 共通アクセスカード (CAC) と個人識別情報検証 (PIV): ユーザー証明書によって認証する機能を提供
- ユーザーセッション管理: 国防情報システム局セキュリティ技術導入ガイド (DISA STIGs) に準拠
- API キー: API 認証管理
- ストレージ管理: ディスクとクラウド STU 上での作成、読み取り、更新、削除 (CRUD) 操作、ディスクプール、クラウドストレージプール、MSDP のレプリケーションポリシー管理
- NetBackup 構成管理: 実行中のプロセスとデーモンの一覧表示。また、構成の読み取りおよび更新 (bpgetconfig および bpsetconfig と同様)
- 手動バックアップ: 既存ポリシーで bpbbackup を実行

バージョン化された API

NetBackup 8.2 では、次の API がバージョン化されました。適切なバージョンを指定すれば、これらの API の以前のバージョンも引き続きサポートされます。

```
GET /admin/jobs
GET /admin/jobs/{jobId}
GET /admin/jobs/{jobId}/try-logs
POST /config/slps
PATCH /config/slps/{slpName}
GET /config/snapshotproviders/supportedplugins
GET /config/snapshotproviders/supportedplugins/{pluginType}
```

```
POST /config/snapshotproviders/configuredplugins/{pluginType}/instances
PUT /config/snapshotproviders/configuredplugins/{pluginType}/instances/{instanceName}
GET /config/hosts
POST /preview-asset-group
POST /recovery/workloads/vmware/instant-access-mounts
GET /recovery/workloads/vmware/instant-access-mounts
GET /recovery/workloads/vmware/instant-access-mounts/{mountId}
POST /recovery/workloads/vmware/instant-access-mounts/{mountId}/restore
POST /recovery/workloads/vmware/instant-access-vms
GET /recovery/workloads/vmware/instant-access-vms
GET /recovery/workloads/vmware/instant-access-vms/{mountId}
POST /servicecatalog/slos
GET /servicecatalog/slos
GET /servicecatalog/slos/{sloId}
PUT /servicecatalog/slos/{sloId}
PATCH /servicecatalog/slos/{sloId}
DELETE /servicecatalog/slos/{sloId}
GET /storage/storage-units
GET /storage/storage-units/{storageUnitName}
```

メモ: 詳しくは、SORT で『[NetBackup 8.2 API リファレンス](#)』を参照してください。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

新しい API キー機能による API とコマンドでのユーザー認証

NetBackup では、API キーを介したユーザー認証がサポートされるようになりました。NetBackup API キーは事前認証されたトークンで、これにより NetBackup ユーザーは NetBackup コマンド (`nbcertcmd -createToken` や `nbcertcmd -revokeCertificate`) を実行したり、NetBackup RESTful API にアクセスできます。

API キーは、パスワードとは違って長期間使用でき、期限を設定することもできます。そのため、認証が必要な操作を、API キーを使用して長期間実行できます。

NetBackup 8.2 のサポートの追加および変更点

メモ: この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、『[NetBackup マスター互換性リスト](#)』を参照してください。

NetBackup 8.2 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

- プラットフォーム
 - Red Hat Enterprise Linux (Power) 8.0 - クライアント
 - Red Hat Enterprise Linux 8.0 (x86-64) - マスターサーバー、クライアント
 - SUSE Linux Enterprise Server 15 (POWER) - クライアント
 - SUSE Linux Enterprise Server 15 (x86-64) - マスターサーバー、メディアサーバー、クライアント
 - SUSE Linux Enterprise Server 15 (z/Architecture) - メディアサーバー、クライアント
 - Windows Server 2019 (x86-64) - マスターサーバー、メディアサーバー
- 仮想化
 - Nutanix のサポート
 - AOS バージョン 5.10
 - VMware のサポート
 - vCloud Director 9.1、9.5
 - VDDK 6.7 U2
 - Windows Server 2016 上の Hyper-V でのゲスト OS のサポート
 - SUSE Linux Enterprise Server 15
- データベース
 - Apache Hadoop HDFS 3.x
 - Microsoft Exchange Server 2019
 - Microsoft Exchange Server 2019 CU1
 - Oracle Database 18.4 (18c)
 - Windows Server 2016 上の Hyper-V でのゲスト OS のサポート
- BMR のサポート
 - BMR クライアントと BMR ブートサーバー
 - Oracle Enterprise Linux 6.10 (x86-64)
 - Red Hat Enterprise Linux 6.10 (x86-64)
 - Red Hat Enterprise Linux 7.6 (x86-64)
 - Solaris 11.2 (SPARC)
 - Solaris 11.3 (SPARC)

- Windows Server 2019
- BMR サーバー
 - Red Hat Enterprise Linux 6.10 (x86-64)
 - Windows Server 2019

クラウドプロバイダの変更と拡張機能

このリリースの NetBackup では、次のクラウドプロバイダの変更と機能強化が行われました。

- NetBackup 8.2 では、次のクラウドプロバイダのサポートが廃止されました。ただし、NetBackup OpsCenter が、古いバージョンを使用しているメディアサーバーに対してこれらのプロバイダのジョブデータを報告します。
 - AT&T
 - Rackspace
 - Atmos
- 次の Amazon S3 クラウドプロバイダがサポートされます。
 - Kingsoft Standard Storage Service
 - Veritas Cognitive Object Storage
- 次の Amazon S3 リージョンのサポートが追加されました。
 - Amazon EU (パリ) および中国 (寧夏)
 - Amazon GovCloud 米国東部リージョン
- ストリームベースのバックアップ操作のため、Amazon AWS IAM ロールのサポートが追加されました。
- Azure ドイツリージョンのサポートが追加されました。
- Microsoft Azure アーカイブ層へのデータのバックアップがサポートされました。
- Amazon および AmazonGov の Glacier Deep Archive ストレージクラスのサポートが追加されました
- Glacier へのバックアップの場合、ゼロデイライフサイクルポリシーは、直接アップロードに変更されます。
- NetBackup CloudCatalyst が Amazon S3 Glacier をサポートするようになりました。

クラウドベンダーのサポートについて詳しくは、『[NetBackup クラウド管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup ライセンスの機能拡張

NetBackup 8.2 では、次のライセンスの機能が拡張されました。

- nbdeployutil での NEVC ライセンスのサポート
現時点では、NetBackup 8.2 マスターサーバーを使用しているお客様のみ、NEVC (NetBackup Enterprise Virtual Client) ライセンスモデルが Smart Meter によってサポートされます。NEVC ライセンスでは、Hypervisor の CPU ソケットの合計数に基づいてライセンスを付与します。ライセンス形式を NEVC に設定すると、nbdeployutil は自動実行時や定時実行時に NEVC の使用状況の情報をキャプチャし、ライセンスレポートを生成します。この NEVC 情報は、Smart Meter に送信されます。NEVC ライセンスについては、NetBackup のライセンスガイドを参照してください。

- 従来、NEVC、容量 – Smart Meter での NDMP および BigData、NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing のサポート

Smart Meter は、次のライセンスプラットフォームをサポートします。

- NetBackup Traditional Licensing Model Edition
- NEVC (NetBackup Enterprise Virtual Client) Edition
- NetBackup Platform Base BigData Workload Edition
- NetBackup Platform Base NDMP Edition
- NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing

nbdeployutil ユーティリティは、Smart Meter ポータルに表示されるこれらのライセンス形式の使用状況の情報を送信します。

現時点で、nbdeployutil ユーティリティは Complete Edition with Flexible Licensing をサポートしておらず、nbdeployutil は Flex レポートまたは JSON ファイルを作成しません。NetBackup は、NetBackup Platform Base Complete Edition の使用状況の情報を Smart Meter に送信し、この情報はさらに Flexible Licensing のサポート対象形式に変換されます。Smart Meter には、お客様の実際の使用状況と Complete Edition with Flexible Licensing 用に変換された使用状況の両方が表示されます。

NetBackup での NAT のサポートについて

NetBackup は、ネットワークアドレス変換 (NAT) を実行するデバイスを介してパブリックネットワーク内の NetBackup サーバーに接続された、プライベートネットワーク内の NetBackup クライアントをサポートするようになりました。そのような NetBackup クライアントは NAT クライアントと呼びます。

NetBackup の NAT クライアントのサポートについては、『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。

NetBackup 8.2 サーバーからの BMR クライアントのリストアでは NetBackup CA が署名した証明書が必要

Bare Metal Restore (BMR) リストアでは、NetBackup CA が署名した証明書またはホスト ID ベースの証明書を使用します。したがって、BMR クライアントのバックアップイメージを含む NetBackup 8.2 マスターサーバーとメディアサーバーで BMR リストアを正常に実行するには、NetBackup CA が署名した証明書が必要です。

NetBackup 8.2 でサポートされる BMR ワークフローについて詳しくは、次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100044534

update_clients スクリプトをクライアントのプッシュに利用できなくなりました

インストールスクリプト update_clients を使用して NetBackup 8.2 以降のクライアントをプッシュできないことに注意してください。VxUpdate を使用する必要があります。VxUpdate について詳しくは、『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- bp.kill_all
- bpdown
- bpclusterkill

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

BigData ポリシーでの OpenStack の作業負荷の保護

NetBackup BigData ポリシーで、OpenStack の作業負荷を保護するようになりました。

OpenStack に BigData ポリシーを使用する方法について詳しくは、『NetBackup for OpenStack 管理者ガイド』を参照してください。

新しく追加されたインストール前チェック

NetBackup は、インストールまたはアップグレードの開始時に、処理を続行する前に操作が正常に実行されることを確認するためのチェックを実行する、インストール前プログラ

ムを使用します。実行されるチェックは、インストール時やアップグレード時に発生した以前の問題に関して、お客様からいただいたご意見に基づいて開発されました。

NetBackup 8.2 では、ネットワークと構成の新しいチェックが 10 個追加されました。お客様から新たにフィードバックをいただいた場合、Veritas はこのチェッカーを更新する可能性があります。更新は、NetBackup のリリースには依存しません。サーバーが telemetry.veritas.com に接続できる場合、インストールやアップグレードを開始すると、NetBackup がチェッカーを最新のバージョンに自動的に更新します。

UNIX でのインストール時の RBAC ロールの割り当て

UNIX プラットフォームでの NetBackup のインストールまたはアップグレード時に、RBAC のブートストラップで、ユーザーまたはユーザーグループに、役割ベースのアクセス制御 (RBAC) 権限を割り当てることができます。UNIX インストーラで、`bpnbaz -AddRBACPrincipal CLI` を使用して、`/tmp/NBInstallAnswer.conf` ファイルに指定したユーザーまたはユーザーグループに、セキュリティ管理者およびバックアップ管理者の両方の権限を付与します。

メモ: RBAC ブートストラップは、以前にユーザーまたはユーザーグループが特定のオブジェクトへのアクセスを制限されていた場合でも、指定したユーザーまたはユーザーグループにすべてのオブジェクトへのアクセスを提供します。たとえば、既存のユーザー `Tester1` が、いくつかのオブジェクトグループのみへのアクセス権を持つバックアップ管理者ロールに割り当てられているとします。`Tester1` に RBAC ブートストラップを指定すると、`Tester1` は、すべてのオブジェクトへのアクセス権を持つバックアップ管理者ロールとセキュリティ管理者ロールに割り当てられます。

インストールまたはアップグレード後に、Windows と UNIX の両方のプラットフォームで、`bpnbaz -AddRBACPrincipal CLI` をスタンドアロンで実行して RBAC 権限を割り当てることができます。CLI は、マスターサーバーでのみ利用できます。

詳しくは、次のガイドを参照してください。

- 『NetBackup インストールガイド』
- 『NetBackup アップグレードガイド』
- 『NetBackup コマンドリファレンスガイド』
- 『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』

メディアサーバーのインストールおよびアップグレードの機能強化

NetBackup 8.2 では、ネイティブのオペレーティングシステムコマンドを使用して、NetBackup メディアサーバーをインストールおよびアップグレードする機能が追加されました。クライアント機能のネイティブパッケージと同様に、構成は応答ファイルによって決まります。

詳しくは、次のガイドの該当するセクションを参照してください。

- 『NetBackup インストールガイド』
- 『NetBackup アップグレードガイド』

メディアサーバーをアップグレードするための VxUpdate のサポート

NetBackup 8.2 では、VxUpdate を使用してメディアサーバーをアップグレードする機能が追加されました。NetBackup バージョン 7.7 以降を実行しているメディアサーバーが、この方法を使用してアップグレードできます。NetBackup 8.2 メディアサーバーに EEB を適用する機能も追加されました。

インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するか、NetBackup 8.2 にアップグレードする

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 8.2 をインストールするか、そのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup マスターサーバー上のクラウド構成ファイルの更新が必要になる場合があります。NetBackup 8.2 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Veritas はリリース間にもクラウド構成ファイルに新しいクラウドサポートを継続的に追加します。NetBackup 8.2 の最終ビルドのクラウドストレージサポートは、クラウド構成パッケージのバージョン 2.6.0 に含まれるものと同じです。

クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.5.4 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ必要です。バージョン 2.5.4 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 8.2 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- Nutanix Buckets (S3)

最新のクラウド構成パッケージについては、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100033434

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100039095

証明書失効リスト (CRL) に対するクラウドプロバイダの証明書の検証

すべてのクラウドプロバイダに対し、NetBackup は証明書失効リスト (CRL) に対して SSL 証明書を検証するための機能を提供します。SSL が有効で CRL オプションが有効になっている場合、CRL に対して、それぞれの非自己署名 SSL 証明書が検証されます。

証明書が無効である場合、NetBackup はクラウドプロバイダに接続しません。詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

新しいクラウドストレージに対するカスタムオブジェクトのチャンクサイズの構成

新しいクラウドストレージに対してカスタムオブジェクトのチャンクサイズを指定すると、バックアップとリストア操作のパフォーマンスを向上できます。詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup Cloud 構成サービスの変更

NetBackup CloudStore Service Container (nbcssc) サービスは、クラウドストレージ用に構成されたメディアサーバーでのクラウド構成に使用される Web ベースサービスです。NetBackup リリース 8.2 以降、nbcssc サービスは配備されなくなりました。

nbcssc が実行していた操作は、既存の 2 つの NetBackup サービスが引き継いでいます。NetBackup Web 管理コンソール (nbwmc) サービスはクラウド構成操作を処理し、NetBackup Service Layer (nbsl) サービスはスロットルサービスと測定データコレクタサービスの機能を担当するようになりました。

ただし、NetBackup は、クラウドストレージ用に構成された古いメディアサーバーに対するサポートも提供します。バージョン 7.7.x から 8.1.2 のメディアサーバーはサポート対象です。nbcssc サービスをホストする古いメディアサーバーは、最新バージョンにアップグレードされたマスターサーバーとシームレスに動作します。マスターサーバーは、古いメディアサーバーで実行されている nbcssc サービスとの通信にポート 5637 を使用します。

この旧バージョンのメディアに対するサポートにより、既存の NetBackup 配備のスムーズな移行パスが実現し、既存のクラウドストレージの本番ワークフローを停止することなく、古いメディアサーバーのローリングアップグレードを計画できます。

クラウド構成について詳しくは、『Veritas NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。NetBackup で使用するポートについて詳しくは、『Veritas NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド』を参照してください。

古いクラウドストレージメディアサーバーをサポートするための新しいパラメータ (CSSC_ALLOW_LEGACY_AUTH) の追加

NetBackup のすべてのクラウドストレージ構成パラメータ設定は、cloudstore.conf 構成ファイルで定義されています。クラウドストレージ用に構成された古いメディアサーバーとの通信を有効にするため、NetBackup 8.2 は CSSC_ALLOW_LEGACY_AUTH という名前の新しいパラメータを採用しています。このパラメータを使用して、古いクラウドストレージメディアサーバーとマスターサーバーの通信を有効または無効にできます。

詳しくは、『Veritas NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

Amazon Snowball と Amazon Snowball Edge を使用する NetBackup でクラウドにデータのバックアップを作成する

Amazon Snowball および Amazon Snowball Edge のデバイスを NetBackup と CloudCatalyst で構成すると、クラウドにデータをバックアップできます。

詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』で「Amazon Snowball および Amazon Snowball Edge を使用したデータの保護」を参照してください。

自動イメージレプリケーション (AIR) とターゲット AIR で CloudCatalyst ストレージサーバーのサポートを開始

CloudCatalyst ストレージサーバーを、AIR のソースまたはターゲットサーバーおよびターゲット AIR に指定できます。ソースストレージが CloudCatalyst ストレージサーバーの場合、ターゲットストレージは MSDP または CloudCatalyst ストレージサーバーにする必要があります。ターゲットストレージが CloudCatalyst ストレージサーバーの場合は、ソースストレージに MSDP または CloudCatalyst ストレージサーバーを指定できます。

メモ: CloudCatalyst ストレージサーバーをターゲットストレージとして構成する前に、AIR 操作とターゲット AIR 操作の信頼関係を確立する必要があります。信頼できるマスターサーバーのドロップダウンリストから、AIR のターゲットとして CloudCatalyst ストレージサーバーを選択する必要があります。

詳しくは、『NetBackup Deduplication ガイド』を参照してください。

統合されたスナップショット管理の拡張機能

オンプレミスの拡張機能

NetBackup 8.2 には、SAN 用の次の拡張機能が含まれています。

- Oracle と DB2 の作業負荷に対してアプリケーション整合性スナップショットがサポートされています。
- RHEL および SUSE プラットフォームの NetBackup クライアントで XFS ファイルシステムと Linux Volume Manager がサポートされています。
- Red Hat Linux、SUSE、Solaris、AIX、HP-UX、Windows の NetBackup クライアントプラットフォームで、スナップショット、インデックススナップショット、ライブ参照、シングルファイルリストアからのバックアップがサポートされています。
- ハードウェアスナップショットを使用する Windows 作業負荷の指定した時点へのロールバックで、VSS の再同期機能を使用するようになりました。

- NetApp FAS、HP-3PAR、Pure Storage、EMC Unity のストレージアレイがサポートされています。

NetBackup 8.2 には、NAS 用の次の拡張機能が含まれています。

- ネットワークファイルシステム (NFS) を介した NAS 共有のスナップショットがサポートされています。
- スナップショット、インデックススナップショット、ライブ参照、シングルファイルリストアがサポートされています。
- ハードウェアスナップショットを使用する Windows 作業負荷の指定した時点へのロールバックは、VSS の再同期機能を使用するようになりました。
- NetApp cDOT のストレージアレイがサポートされます。

クラウド内の拡張機能

このリリースの NetBackup には、NetBackup と CloudPoint (バージョン 2.2 以降) の統合を使用してクラウド内の資産を保護するために、次の拡張機能が搭載されました。

- クラウドの仮想マシンに配備されているアプリケーションのアプリケーション整合性 (ポイントインタイム) スナップショットを取得できます。この拡張機能では、指定した時点へのアプリケーションのロールバックリストアも実行できます。サポート対象のアプリケーションについては、「[NetBackup マスター互換性リスト](#)」を参照してください。
- CloudPoint (NetBackup のスナップショット管理サーバー) が AWS クラウドに配備されている場合、AWS IAM ロールを使用して AWS プラグインを構成できます。
- クラウド資産のロールバックリカバリを実行できます。クラウド資産のロールバックリカバリでは、元の資産の既存のデータが上書きされます。元の場所や代替の場所へのリストアとは異なり、リストアされたイメージの新しい複製は作成されませんが、リストア元の既存のデータは置き換えられます。
- クラウド資産のスナップショットをプライマリの場所からリモートやセカンダリの場所にレプリケートできます。この機能は、AWS クラウド資産に対してのみ利用できます。スナップショット管理サーバー (CloudPoint) は、AWS の領域間およびアカウント間のレプリケーションをサポートしています。

これらの機能強化について詳しくは、『[NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド](#)』を参照してください。

csconfig コマンドユーティリティに追加された新しいオプション (reinitialize)

クラウドストレージの構成設定を更新した場合、サービスを再起動して変更を有効にする必要があります。NetBackup 8.2 以降のリリースでは、NetBackup Web 管理コンソール (nbwmc) の Web サービスを再起動する必要があります。NetBackup 8.2 より前のリリースでは、NetBackup CloudStore Service Container (nbcssc) サービスを再起動する必

があります。NetBackup 8.2 で導入された、`csconfig` コマンドユーティリティの新しいオプション (`reinitialize`) により、サービスを再起動する必要がなくなります。`csconfig reinitialize` オプションを実行して、`nbwmc` の Web サービスで **CloudStore Service Container** コンポーネントを再初期化します。このコマンドは、更新した構成設定を自動的に再ロードするため、サービスを再起動する必要がありません。

詳しくは、『Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

VMware 向けの NetBackup の機能拡張

NetBackup 8.2 では、NetBackup Web UI と NetBackup API 使用時の VMware Discovery、Recover、Backup、Configuration の機能が拡張されました。

- 必要に応じて、VMware サーバーの検出手動で開始できるようになりました。仮想サーバーのクレデンシアルを追加または更新すると自動検出されるメリットも享受できます。
- NetBackup Web UI におけるリカバリワークフローで、データストアクラスターがリカバリターゲットとしてサポートされます。
- 代替の VMware リカバリホストを指定する機能とともに、リストア対象の複製を指定するオプションを利用できます。
- 新しい権限によって、VMware 資産のリカバリで問題が発生するのを防ぎます。
- 新しい NetBackup API は、詳細なリソース制限、VMware サーバーのクレデンシアル、VMware や他の RHV (Red Hat Virtualization) などの作業負荷のアクセスホストを管理する機能を備えています。
- NetBackup Web UI で、サーバークレデンシアルを編集、削除、検証できるようになりました。
- 保護計画の作成時に、バックアップ管理者が VMware のバックアップオプションを選択できるようになりました。
- VMware のエージェントレスリストアでは、NetBackup クライアントがインストールされていない仮想マシンに、個々のファイルやフォルダをリストアできます。VxUpdate を使用すると、NetBackup で、仮想マシンへのリカバリツールの配備、ファイルやフォルダのリストア、必要なクリーンアップの実行が可能です。NetBackup は、ファイルをリカバリするためにリカバリ先の仮想マシンに接続する必要はありません。すべてのリカバリは、API を使用して ESX サーバー経由で処理されます。

これらの機能拡張について詳しくは、以下のマニュアルを参照してください。

- [SORT の NetBackup API リファレンス](#)
- [『NetBackup Web UI VMware 管理者ガイド』](#)

NetBackup による RHV (Red Hat Virtualization) の保護

NetBackup 8.2 では、RHV (Red Hat Virtualization) プラットフォームに配備されている仮想マシンを保護できます。NetBackup 8.2 Web UI で、Red Hat Virtualization の作業負荷を管理、保護、リカバリできます。NetBackup と oVirt API の統合により、RHV マネージャを使用して、RHV 環境を VM レベルで保護できます。

メモ: ユーザーは、root ユーザーまたは管理者であるか、NetBackup RBAC でこれらのユーザーに設定された役割が割り当てられている必要があります。

詳しくは、次のガイドのいずれかを参照してください。

- 『[NetBackup Web UI RHV 管理者ガイド](#)』
- 『[NetBackup Web UI バックアップ管理者ガイド](#)』
- 『[NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド](#)』

インスタントアクセスの新機能

NetBackup 8.2 では、インスタントアクセスに関する次の新機能が搭載されました。

- インスタントアクセス機能を使用したファイルとフォルダのリストアとダウンロード。
NetBackup は、インスタントアクセス機能を使用した複数のファイルとフォルダのリストアとダウンロードをサポートします。この機能により、ユーザーのデータに対するアクセシビリティが向上します。
- インスタントアクセス機能を使用した仮想マシンの作成。
NetBackup は、インスタントアクセス機能を使用して仮想マシンを作成するときに vMotion をサポートします。インスタントアクセス仮想マシンを自動的に移行し、ストレージアプライアンスからリソースを解放できます。
- ユニバーサル共有データの保護。
NetBackup は、データのバックアップを作成して、そのバックアップを管理することにより、ユニバーサル共有のデータを保護します。NetBackup インスタントアクセス API を使用して、バックアップに即座にアクセスできます。NetBackup API について詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

[SORT の NetBackup API リファレンス](#)

VMware、RHV、Hyper-V リソースのグローバルリソースの制限の変更

VMware、RHV (Red Hat Virtualization)、Hyper-V リソースの使用に対してグローバル制限を設定する際、以下の制限事項が適用されます。

- 新規および変更されたリソースの制限は、すぐには反映されません。リソースの制限の更新が反映されるまでに、いくつかのジョブが実行されます。

- NetBackup 8.2 では、NetBackup 管理コンソールまたは NetBackup 構成 API のみ、VMware、RHV (Red Hat Virtualization)、Hyper-V リソースのグローバル制限を設定できます。NetBackup Web UI では、これらのリソースの制限を設定できません。構成 API について詳しくは、『[SORT の NetBackup API リファレンス](#)』を参照してください。VMware リソースの制限について詳しくは、『[NetBackup 8.2 for VMware 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。詳しくは、『[NetBackup Web UI RHV 管理者ガイド](#)』を参照してください。Hyper-V リソースの制限について詳しくは、『[NetBackup 8.1.1 for Hyper-V 管理者ガイド](#)』を参照してください。

Nutanix AHV 仮想マシンのリカバリプロセスの強化

NetBackup 8.2 は、BigData ポリシーを使用して保護されている Nutanix AHV VM のリカバリに関するエクスペリエンスを強化しました。管理コンソールの[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]ページまたはコマンドラインオプションを使用して、ユーザーフレンドリーな方法で VM の完全なリカバリを計画できます。

詳しくは、『[NetBackup for Nutanix AHV 管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup は予定されている Nutanix AHV プラグインを通じて Nutanix AHV のアクセラレータのサポートを導入

8.2 バージョンから、NetBackup に Hypervisor と呼ばれる新しいポリシー形式が導入されます。Hypervisor ポリシー形式を使用すると、Nutanix AHV (Acropolis Hypervisor) や RHV (Red Hat Virtualization) などのハイパーコンバージドシステムと Hypervisor を保護できます。

Hypervisor ポリシーは、既存のいくつかの NetBackup 機能を活用して、Hypervisor と仮想化の作業負荷を保護します。たとえば、Hypervisor の変更ブロックの追跡機能を使用する Hypervisor 用アクセラレータがあります。

Nutanix AHV 用の Hypervisor ポリシーに加えて、今後のプラグインを使用したアクセラレータサポートを活用できます。

詳しくは、今後の『[NetBackup for AHV 管理者ガイド](#)』を参照してください。プラグインとガイドは、NetBackup 8.2 のリリース後、速やかに入手できるようになります。

Microsoft SQL Server エージェントの機能強化

このリリースの NetBackup では、Microsoft SQL Server エージェントの次の機能が強化されました。

- SQL Server インテリジェントポリシーでの可用性グループのサポート
SQL Server インテリジェントポリシーでの高度可用性データベース、基本可用性データベース、読み取りスケール可用性データベースのサポートが追加されました。
- リストアのパフォーマンスの向上

NetBackup MS SQL クライアントのユーザーインターフェースに、データベース名別にバックアップイメージをフィルタ処理する機能が追加されました。また、リストインターフェースの全体的なパフォーマンスが向上しました。これらの機能強化により、既知のデータベースをリカバリする際に、バックアップイメージの参照や選択の速度が大幅に向上しました。

- 増分バックアップまたは完全バックアップ時のトランザクションログのバックアップのアクティブ化
スケジュールアルゴリズムにより、管理者が完全バックアップまたは差分バックアップとトランザクションログの同時バックアップをスケジュール設定できるようになりました。この変更により、トランザクションログのポリシーと完全バックアップまたは差分バックアップのポリシーを個別に作成する必要がなくなり、リカバリ処理が簡略化されました。

詳しくは、『NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド』を参照してください。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.2 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup API の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 重複排除に関する注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 8.2 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の

注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。

NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

p.72 の「[NetBackup の関連マニュアルについて](#)」を参照してください。

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 8.2 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Linux デーモンのシャットダウンの問題

クライアントのインストールまたはアップグレード (すべてのメソッド)、およびメディアサーバーのネイティブインストールまたはアップグレード中に、NetBackup デーモンは、インストールされた最後の NetBackup RPM パッケージの一部として開始されます。(クライアント用の VRTSnbcfg、メディアサーバー用の VRTSnetbp。) システムのネイティブ rpm コマンドのバージョンが 4.14.0 以降の場合、インストールまたはアップグレード後に初めて NetBackup デーモンをシャットダウンする際に問題が発生することがあります。その後のすべてのシャットダウンの試行は、期待どおりに動作します。

ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpcck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この

場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf
rpm -U --noscripts VRTSnbpck.rpm
rpm -U VRTSspbx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

NetBackup 8.2 と SUSE 15 のインストールの問題

SUSE 15 サーバーに NetBackup をインストールした後で、NetBackup サービスが起動しません。この問題は、SUSE パッケージの変更が原因です。

このインストールの問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- 1 NetBackup をインストールする前に、SuSE15 ISO から insserv-compat パッケージをインストールします。
- 2 NetBackup がすでにインストールされている場合は、次の操作を行います。
 - SuSE15 ISO から insserv-compat パッケージをインストールします。
 - `insserv netbackup` コマンドを実行します。
 - `chkconfig netbackup` コマンドを実行します。出力は、`netbackup on` になります。

NetBackup 8.2 と RHEL 8 のインストールの問題

RHEL 8 に NetBackup 8.2 をインストールする際に、NetBackup ライセンスキーを入力すると、次のエラーが表示されます。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bpminlicense: error while loading
shared libraries: libnsl.so.1: cannot open shared object file: No
such file or directory (127)
```

この問題は、Red Hat による `libnsl.so.1` ライブラリのアップグレードが原因で発生します。このインストールの問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- 1 NetBackup のインストールを開始する前に、ルートクレデンシャルを使用して RHEL 8 サーバーにログインし、`libnsl` ライブラリをインストールします。
- 2 ルートクレデンシャルを使用して RHEL 8 サーバーにログインし、`libnsl` ライブラリをインストールします。その後、NetBackup を再インストールします。

NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 (_) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019

インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないでください

インストール DVD をディスクドライブに挿入すると、オペレーティングシステムのユーザーインターフェースウィンドウ (Solaris の [ファイルマネージャ] など) が開く場合があります。このウィンドウを使用して NetBackup 製品をインストールしないことを Veritas が推奨します。このウィンドウを使用すると、予測できない結果が生じる可能性があります。『NetBackup インストールガイド』に記載されているインストール手順に必ず従ってください。

HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall と swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが中止されます。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにパラメータがすべての swremove と swinstall コマンドに追加されます。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システム

などが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.2 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup マスターサーバーが btrfs ファイルシステムでサポートされない

UNIX プラットフォームでは、NetBackup Sybase データベースのファイルが、マスターサーバーのディレクトリ `/usr/opensv/db` に存在します。

btrfs ファイルシステムで NetBackup をインストールまたはアップグレードした場合、データベースはサポートされません。NetBackup の正常な操作のため、NetBackup のデータベースディレクトリが btrfs 以外のファイルシステム (たとえば、ext4 や xfs) に存在することを確認してください。

NBAC が存在する環境で非管理者ユーザーがリソース制限を読み取りまたは更新できない

NBAC が構成された環境では、非 root ユーザーまたは非管理者ユーザーが、リソース制限の値を読み取りまたは更新できません。この問題は、サポート対象のすべての作業負荷に該当します。

回避方法: NetBackup 管理コンソールで、適切な権限を指定して非 root ユーザーまたは非管理者ユーザーを `auth.conf` ファイルに追加し、リソース制限機能へのアクセスを有効にします。

リソース制限について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メディアサーバーとバックアップホストは BigData ポリシーに同じ NetBackup バージョンを使用する必要がある

メディアサーバーとバックアップホストは、BigData ポリシーに同じ NetBackup バージョンを使用する必要があります。ストレージユニットが存在するメディアサーバーの NetBackup バージョンが古い場合、バックアップジョブはエラー 20 で失敗します。

BigData ポリシーを使用する作業負荷のバックアップが失敗する

BigData ポリシーを使用する作業負荷を保護するためのバックアップホストとして NetBackup クライアントが存在し、このバックアップホストが 2 つのマスターサーバー間で共有される場合、バックアップは失敗します。

バックアップ中に NetBackup クライアントは `bp.conf` ファイルをスキャンします。マスターサーバーが 2 番目の位置にある場合、バックアップが失敗し、次のエラーが表示されます。

```
(6654) Unable to retrieve the credentials for the server.
```

回避方法: `bp.conf` ファイルで、マスターサーバーのエントリがサーバー名の最初のエントリであることを確認します。

インスタンスの再作成が失敗した場合でも OpenStack リストアジョブが正常に実行される

OpenStack 環境では、リカバリされたデータからインスタンスの再作成を試みて失敗した場合でも、リストアジョブが正常に実行されます。

トラブルシューティングを行うには、OpenStack ダッシュボードを使用して問題を確認します。

IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項

NetBackup の次の制限事項は、IPv6 アドレスがクライアント名またはイメージ名として使われている場合に当てはまる場合があります。

- ポリシーでクライアント名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。この場合は、バックアップに失敗する可能性があります。IPv6 アドレスの代わりにホスト名を指定してください。イメージ名は NetBackup で自動的に作成され、クライアント名とタイムスタンプの組み合わせで構成されます。クライアント名がポリシー内で IPv6 アドレスとして構成されていると、IPv6 アドレスが含まれているイメージ名が (イメージカタログに) 生成されます。この場合は、バックアップに失敗します。
- カタログでイメージ名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 8.2 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースの詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォーム

の互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.69 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

- NetBackup Web ユーザーインターフェース (UI)
- NetBackup 管理コンソール
- リモート管理コンソール
- デバイス管理用の文字ベースのメニューインターフェイス
- コマンドライン

Web UI から NetBackup 管理コンソールセッションを終了するとユーザーがログアウトされない

ユーザーが NetBackup 管理コンソールにログインすると、NetBackup はセッションを作成します。NetBackup Web UI の[有効なセッション (Active sessions)]タブにそのセッションが表示され、終了できます。ただし、Web UI からそのセッションを終了すると、ユーザーは NetBackup 管理コンソールから完全にはログアウトされません。代わりに、NetBackup 管理コンソールの一部の機能が正しく動作しない可能性があります。ユーザーに「状態コード: 117。Web サービス認証に失敗しました。NetBackup 管理者コンソールに再度ログインする必要があります。(Status Code: 117. Web service authentication failed. You may have to log in to the NetBackup Administrator Console again.)」のメッセージが表示される場合があります。

メモ: Veritas は、NetBackup Web UI の[有効なセッション (Active sessions)]タブからこれらのセッションを終了しないことをお勧めします。

回避方法: Web UI からのセッションが終了した場合、すべての機能を回復するには、ユーザーは再度 NetBackup 管理コンソールにログインする必要があります。

NetBackup Web UI セッションを終了してもユーザーがすぐにログアウトされない

管理者がユーザーの有効な Web UI セッションを終了しても、そのユーザーはすぐにセッションからログアウトされません。代わりに、別のページに移動した後またはセッションがアイドル状態のセッションタイムアウト時間に達した後にはのみ、ユーザーはログアウトされます。

NetBackup 8.2 がサポートするアクセス制御方式

NetBackup の役割に基づくアクセス制御 (RBAC) は、Web UI と API でのみ利用可能です。NetBackup のその他のアクセス制御方法は、拡張監査 (EA) を除いて、Web UI と API ではサポートされません。EA を使用して構成されているユーザーは、Web UI と API に対する完全なアクセス権を持ちます。NetBackup アクセス制御 (NBAC) が有効な場合は、Web UI を使用できません。

詳しくは、『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』を参照してください。

リモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、「操作がタイムアウトしました」というメッセージが表示される

NetBackup のリモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、次の警告メッセージが表示されます。

```
The operation timed out. The operation has exceeded the time out limit, though service or daemon may still be processing the request.
```

この警告は、NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT のデフォルト値が必要な値を下回っているために表示されます。ただし、[OK] をクリックしてもポリシーにはまだアクセスできません。

回避策: NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT 値を変更します。

- 変更前:

```
SET NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT=60
```

- 変更後:

```
SET NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT=300
```

変更が完了したら、NetBackup のリモート管理コンソールを再起動します。ポリシーが最大 5 分 (300 秒) 以内にロードされます。

NetBackup のリモート管理コンソールの構成オプションの設定については、NetBackup 8.2 の『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動は、特定の Linux プラットフォーム、特に VMware 上の Red Hat Enterprise Linux 6.0 (RHEL 6.0) で失敗する場合があります。この問題は、デフォルトの GNU C ライブラリ (glibc) と比較的新しいハードウェアでの Advanced Vector Extensions (AVX) との非互換性に起因しています。この問題は、glibc の今後のリリースで対処されます。

回避策: runInstaller を実行する前に export LD_BIND_NOW=1 コマンドを実行します。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する

次の問題は、ログオン ダイアログで指定されているホスト上の 1 つ以上の NetBackup サービスまたはデーモンが実行されていない場合に発生します。

- 機能の低下 (たとえば、バックアップ、アーカイブ、リストアのコンポーネントのみが利用可能)
- NetBackup 管理コンソールの初期化中に[接続できません (Cannot Connect)]エラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup API の操作上の注意事項

NetBackup には、RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) が含まれています。これらの API は、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。このトピックでは、NetBackup 8.2 の NetBackup API に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

詳しくは、SORT で「API Reference」を参照してください。NetBackup の HTML マニュアルで、各 API とそのオプションの説明を参照してください。

パーセントエンコードされた URL を使用して NetBackup API を呼び出す必要がある

インターネット技術特別調査委員会 (IETF) の標準 RFC 3986 に従って、パーセントエンコードされた URL を使用して NetBackup API を呼び出す必要があります。仕様に準拠していないクライアントは、有効な応答の取得に失敗する可能性があります。

再開されたバックアップまたはスナップショットジョブが失敗した場合に、ジョブイニシエータ ID が NetBackup のジョブ API の応答に表示されなくなる

バックアップジョブまたはスナップショットジョブが再開されて失敗した場合に、NetBackup ジョブ API はジョブのイニシエーター ID を戻しません。

イニシエーター ID 別にジョブのリストを表示しようとする、再開後に失敗したジョブは表示されません。

NetBackup クラウドの操作上の注意事項

NetBackup Cloud Storage では、クラウドの STaaS (Storage as a Service) ベンダーからデータをバックアップ、リストアできます。この項では、NetBackup 8.2 の NetBackup クラウドに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

OpenStack バックアップジョブがエラー 6619 で失敗する

OpenStack バックアップジョブは、次のシナリオでエラー 6619 で失敗します。

- バックアップ中に OpenStack サービスが停止した。
- OpenStack が応答しない、または応答が遅い。
- バックアップ中に接続がリセットされた。

回避策: OpenStack サービスを再起動して、バックアップを再始動します。

自動ディザスタリカバリで AWS VM のインポートの前提条件を満たした VM をリカバリする

自動ディザスタリカバリ機能では、Amazon Web Services の VM のインポートに関する前提条件を満たしている仮想マシンをリカバリできます。

前提条件について詳しくは、次の記事を参照してください。

https://docs.aws.amazon.com/vm-import/latest/userguide/vmie_prereqs.html

自動 DR サーバーでインポートおよび recoverec2 ジョブが失敗する

自動 DR サーバーでインポートジョブまたは recoverec2 ジョブが失敗します。次のエラーメッセージがログに表示されます。

```
Critical bpdm (pid=29453) sts_open_server failed: error 2060018 file not found
```

重複排除カタログで NBU_PD_SERVER パスオブジェクトが破損とマークされている場合、この問題が発生する可能性があります。このシナリオでは、実際に破損している可能性があります。

回避方法:

次の手順を使用して問題の解決を試みるか、Veritas テクニカルサポートチームにお問い合わせください。

1. 次のコマンドを使用して **NetBackup Service Monitor** を停止します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/nbsvcmon -terminate
```

2. 次のコマンドを使用して **MSDP** を停止します。

```
/usr/opensv/pdde/pdconfigure/pdde stop
```

3. 次のコマンドを使用して NBU_PD_SERVER が存在する **PODB** ファイルを削除します。

```
rm -f /storage/storage/databases/catalog/2/po.db  
rm -f /storage/storage/databases/catalog/2/ul.db  
rm -f /storage/storage/databases/catalogshadow/2/podb.*  
rm -f /storage/storage/databases/catalogshadow/2/uldb.*  
rm -f /storage/storage/databases/catalogshadow/2/.checksum*
```

4. 次のコマンドを使用して **MSDP** を起動します。

```
/usr/opensv/pdde/pdconfigure/pdde start
```

5. 次のコマンドを使用して **NetBackup Service Monitor** を起動します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/nbsvcmon
```

Windows OS が搭載された AWS EC2 インスタンスを使用するための管理者パスワードを取得できない

このエラーは、自動ディザスタリカバリを使用して変換した AMI からインスタンスを起動した後に発生します。

次のエラーが表示されます。

```
Password is not available. This instance was launched from a custom AMI, or the default password has changed. A password cannot be retrieved for this instance. If you have forgotten your password, you can reset it using the Amazon EC2 configuration service. For more information, see Passwords for a Windows Server Instance.
```

詳しくは、次の記事を参照してください。

- [Amazon Elastic Compute Cloud の一般的なメッセージ](#)
- [ADMT を使用して AWS の管理対象 Microsoft AD にオンプレミスドメインを移行する方法](#)

CRL を使用した証明書失効チェックは Veritas Access クラウドストレージでサポートされていない

証明書失効リスト (CRL) を使用した証明書失効チェックは Veritas Access クラウドストレージでサポートされていません。NetBackup をアップグレードした後、SSL がオンになっている場合、Veritas Access ストレージサーバーが停止します。証明書失効チェックをオフにしてからサーバーを起動する必要があります。詳しくは、『[NetBackup クラウド管理者ガイド](#)』を参照してください。

SSL がオフの場合、ストレージサーバーに CRL の正しくない値が表示されることがある

CloudCatalyst ストレージサーバーまたはクラウドストレージサーバーをアップグレードした後、SSL がオフの場合、ストレージサーバーに表示される証明書失効リスト (CRL) の値が正しくありません (1 に設定)。

回避策: SSL 値に従って CRL 値を更新します。この場合、CRL フラグをオフにします。詳しくは、『[NetBackup Cloud 管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項

Veritas CloudPoint は、動的なマルチクラウド環境用に構築された柔軟なスナップショットベースのエンタープライズクラウドバックアップソリューションです。この項では、Veritas CloudPoint と NetBackup 8.2 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

CloudPoint 2.x のメッセージが ISM では英語になる

Integrated Snapshot Management (ISM、NetBackup-CloudPoint 統合) の場合、CloudPoint 2.x から指定されたメッセージは、どの NetBackup ロケールでも英語で表示されます。

Microsoft Azure の作業負荷のイメージのクリーンアップが失敗することがある

Microsoft Azure の作業負荷に対し、イメージのクリーンアップが次のエラーで失敗します。

30464: 無効なエラーコード (30464: invalid error code)。

回避方法: このエラーは Veritas CloudPoint に関連します。インシデント 7253 および 8030 については、[Veritas CloudPoint リリースノート](#)を参照してください。

NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなデータベースおよびアプリケーション技術を保護する方法をいくつか提供しています。このトピックでは、NetBackup 8.2 によるデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for Hadoop の操作上の注意事項

NetBackup の並列ストリームフレームワーク (PSF) を使用した場合、NetBackup を使用して Hadoop データを保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.2 の NetBackup for Hadoop に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Kerberos を使用した Hadoop のリストアジョブがエラー 2850 で失敗する

Kerberos を使用した Hadoop のリストアジョブがエラー 2850 で失敗します。この問題は、HDFS 所有者がファイルとディレクトリの所有権を設定していない場合、または Kerberos の構成に問題がある場合に発生します。

回避策: リストアする前に、次のことを確認してください。

- Kerberos のバックアップに HDFS 所有者ユーザーが使用されていることを確認します。
- 現在の Kerberos ユーザーで、`chown` や `setfacl` などの HDFS コマンドを使用して、所有者/ACLs を手動で設定できることを確認します。

詳しくは、『[NetBackup for Hadoop 管理者ガイド](#)』を参照してください。

NetBackup 重複排除に関する注意事項

NetBackup は、必要なかぎりデータソースに近い任意の場所でデータを重複排除できるいくつかの重複排除オプションを提供します。任意の場所での重複排除では、バックアップ処理のどの時点で重複排除を実行するかを選択できます。NetBackup は、NetBackup 重複排除エンジンを使用する環境の重複排除を管理できます。この項では、NetBackup 8.2 の NetBackup 重複排除エンジンに関する注意事項および既知の問題について説明します。

MSDP の互換性に関する最新情報について詳しくは、[NetBackup Enterprise Server とサーバー OS のソフトウェア互換性リスト](#)を参照してください。

MSDP KMS 暗号化を構成するときにダイアログボックスが応答しなくなる可能性がある

MSDP KMS 暗号化を構成するときに無効な文字を入力すると、ダイアログボックスが応答しなくなることがあります。

回避方法: 有効な ASCII 文字を使用して MSDP 暗号化を構成する必要があります。無効な文字を入力したためにダイアログボックスが応答しなくなった場合は、ダイアログボックスを強制的に閉じることができます。

- Windows
[タスク マネージャー]で、応答しなくなった NetBackup 管理コンソールを閉じます。

- UNIX
次のコマンドを使用して、プロセス ID を取得します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bpps | grep NBJAVA | grep -v nbwmc
```

kill コマンドを実行します。

NetBackup 管理コンソールを再起動して、エラーが発生したストレージサーバーを削除します。有効な文字を使用して、MSDP KMS を再構成します。

サポート対象の文字について詳しくは、『[NetBackup Deduplication ガイド](#)』の「NetBackup Deduplication Engine のクレデンシャルについて」のトピックを参照してください。

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 8.2 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:
データファイルパス、表領域名
- SAP:
英語の SAP がローカライズされた OS 上で動作します (特定の SAP フィールドがローカライズされることはありません)。
- Exchange:
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- Lotus Notes:
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:
ボルトストア、パーティション、データ
- VMware:
ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (マスターサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名

- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名

NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 8.2 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートの操作上の注意事項

SAN クライアントは NetBackup クライアントの高速なバックアップとリストアを提供する NetBackup のオプション機能です。

NetBackup クライアントの nbftclnt プロセスを停止できない

nbftclnt プロセスが、bp.kill_all コマンドおよび kill -9 nbftclnt コマンドを使用しても停止できません。

回避方法:

echo "1" コマンドを、対応するファイバーチャネルポートの issue_lip インターフェースで使用して、ポートをリセットします。

詳しくは、次の記事を参照してください。

[RHEL-storage_administration_guide/scanning-storage-interconnects](#)

NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Client は NetBackup に各種のスナップショットベースの機能を提供します。ファイバーチャネルネットワーク (SAN) または従来の LAN に接続されている UNIX、Linux および Windows プラットフォームのクライアントがサポートされています。それぞれのスナップショット方式は、データが格納されるストレージサブシステムに組み込まれているスナップショットテクノロジーに依存します。この項では、NetBackup 8.2 の Snapshot Client に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートが状態コード 4213 で失敗する

HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートは、状態コード 4213 で失敗します。現在、CloudPoint は VSO (仮想サーバー所有者) スナップショット方式で、「クローン」のスナップショット形式をサポートしていません。

回避策: 「COW」(コピーオンライト) のスナップショット形式を使用してポリシーを再構成してください。

指定した時点へのロールバック後のスナップショットの削除

ネットワーク接続ストレージ (NAS) の VSO FIM スナップショット方式では、古い複製から指定した時点へのロールバックを実行すると、その時点以降のスナップショットがストレージ

ジアレイから削除されます。この動作により、NetBackup イメージの一貫性がなくなるため、イメージは削除されます。

同様に、いずれかのマウントポイントから指定した時点で古いスナップショットをロールバックすると、そのマウントポイントに関連付けられているスナップショットのみが削除されます。イメージも、一貫性がなくなるため削除されます。ただし、他のマウントポイントに属する他のスナップショットはストレージアレイに残ったままであるため、手動でクリーンアップする必要があります。

スナップショットからのインデックス操作でスナップショットの内容がカタログに正確に入力されない

メモ: この問題は、オンプレミスの作業負荷と UNIX プラットフォームに固有です。

スナップショットからインデックス操作を行う場合、スナップショットのマウントホスト上で /usr/openv ディレクトリが別のパスにリンクされていると、スナップショットの内容がカタログ内で正確にインデックス付けされません。

回避策: スナップショット操作のみが存在するようにストレージライフサイクルポリシーを再構成して、スナップショットからのインデックス操作を削除します。

NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.2 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 8.2 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Web UI と API を使用して VMware VM を ESXi クラスタにリストアするときリカバリ前チェックの検証に失敗する場合がある

NetBackup Web UI と API を使用して VMware VM を ESXi クラスタにリストアするとき、リカバリ前チェックの一部の検証が次のエラーで失敗します。

- データセンターのリストアの場合:
 データセンターパスを検証できませんでした。(Failed to validate datacenter path.)
- データストアまたはデータストアクラスタのリストアの場合:
 構成ファイルのデータストアまたはデータストアクラスタ <名前> が見つかりません。
 (Datastore/datastore cluster name for configuration file not found.)
 データストア <名前>、0 で要求された nn MB が利用可能です (nn megabytes requested on datastore name, 0 available)

回避策: これらのエラーメッセージは不正確であるため、無視してかまいません。ユーザーはそのまま VM をリカバリできます。

メディアサーバーが仮想化サーバーにアクセスできず、状態コード 200 で失敗する

次のシナリオを検討します。

- NetBackup で NAT クライアントのサポートが有効になっている。
- NetBackup 管理コンソールを使用して STU が作成されている。
- NetBackup Web UI を使用して VMware のバックアップの保護計画を作成する。
- 仮想化サーバーにアクセスするバックアップホストを指定する。
- VMware 資産に保護計画を割り当てる。
- サブスクリプションの一部として作成されたポリシーを確認する。
- NetBackup 管理コンソールの [VMware] タブで正しい VMware バックアップホストが表示されているが、[クライアント (Clients)] の [仮想マシンの自動選択を実行するための NetBackup ホスト (NetBackup host to perform automatic virtual machine selection)] オプションが [バックアップメディアサーバー (Backup Media Server)] に設定されている。メディアサーバーは仮想化サーバーにアクセスできず、バックアップが状態コード 200 で失敗する。

回避方法:

- 1 NetBackup 管理コンソール、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ポリシー (Policies)] の順に移動します。
- 2 右ペインで、適切なポリシーを選択します。
- 3 [ポリシーの変更 (Change Policy)] ダイアログボックスで、[クライアント (Clients)] タブを選択します。
- 4 [VMware インテリジェントポリシーの問い合わせを通じて自動的に選択 (Select automatically through VMware Intelligent Policy query)] オプションをクリックします。

- 5 [仮想マシンの自動選択を実行するための **NetBackup ホスト (NetBackup host to perform automatic virtual machine selection)**] ドロップダウンリストから必要なバックアップホストを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

NetBackup および vCloud Director のサポート

NetBackup 8.2 は、vCloud Director の 9.0 より前のバージョンをサポートしていません。9.x より前のバージョンの vCloud Director を使用している場合は、vCloud 9.0、9.1、9.5 にアップグレードするか、vCloud Director とともに NetBackup 8.1.2 以前のサーバーをバックアップおよびリカバリホストとして使用します。

マスターがサポートしていない vCloud Director のバージョンで VMware ポリシーの VIP クエリーを構築する場合、ポリシーを作成するときに次の操作を行います。

- 1 [クライアント (Clients)] タブの [仮想マシンの自動選択を実行するための **NetBackup ホスト (NetBackup host to perform automatic virtual machine selection)**] ドロップダウンリストで、vCloud Director のバージョンをサポートする NetBackup のバージョンのホストを指定します。NetBackup 8.2 マスターサーバーは、9.x より前のバージョンの vCloud のフィールドで可能な値を列挙できません。
- 2 [問い合わせビルダー (Query Builder)] の [値 (Value (s))] フィールドに、保護を必要とする VM の名前を手動で入力する必要があります。[問い合わせビルダー (Query Builder)] で、ポリシーに必要なその他の値を選択します。
- 3 問い合わせを保存し、[問い合わせのテスト (Test Query)] オプションを使用してテストします。

VM をリストアする場合、リストアされる VM の vCloud Director のバージョンをサポートしているリカバリホストを選択していることを確認します。

NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項

NetBackup for Hyper-V では、さまざまなバージョンの Windows サーバー上で動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップを提供します。このトピックでは、NetBackup 8.2 の NetBackup for Hyper-V に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

リカバリウィザードで、選択した Hyper-V サーバーの参照に失敗する

NetBackup Hyper-V アドインのリカバリウィザードの [リストアオプション (Restore Options)] ページで、選択した Hyper-V サーバーのリストア場所の参照に失敗します。

次のエラーメッセージが表示される場合があります。

エラーコード: HostServerUnknown。メッセージ: 仮想マシンホスト <hostname> は、この VMM 管理サーバーに関連付けられていません。推奨処理: 仮想マシンのホスト名を確認し、操作を再試行します。(Error Code : HostServerUnknown ; Message : Virtual machine host <hostname> is not associated with this VMM management server. ; Recommended Action : Check the virtual machine host name and then try the operation again.)

高可用性構成の VM の場合、バックアップ時に Hyper-V サーバー名が仮想クラスタ名に設定されます。仮想クラスタ名の参照はサポートされていません。

回避策: NetBackup Hyper-V アドインのリカバリウィザードの[リカバリオプション (Recovery Options)]ページで、[変更 (Change)]をクリックし、仮想クラスタ名の代わりにクラスタ内の有効なノードを選択します。その後、代替の Hyper-V サーバーへの仮想マシンのリストアを続行できます。

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。

- **Hotfix と EEB Release Auditor**
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。
- **カスタムレポート**
このツールを使うと、システムとベリタスエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定**
このツールを使用すると、今後新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後置き換えられることなく廃止される項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、他社製品の統合、ベリタス製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

ベリタスは新規の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-1

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.54 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.54 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.55 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.56 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。

SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.veritas.com/netbackup>

- 2 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス (Email address) 電子メールアドレスを入力し、検証してください

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.veritas.com/netbackup>

- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけて選択します。

3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。NetBackup では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。

3 [データコレクタ (Data Collectors)]タブを選択します

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。

6 実行 (Run). /sortdc

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。

7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。**8** メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。**9** [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。

10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。**12** インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。**14** タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。ベリタスはフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-2

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.54 の「SORT ページに Veritas Account を作成する方法」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.55 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)」を参照してください。 p.56 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.58 の「今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.58 の「Hotfix と EEB の情報を確認する方法」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)] を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)] をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)] ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

4 [検索 (Search)]をクリックします。

5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 8.2 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackupリリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストールに関する詳細な説明は、『NetBackup インストールガイド』、『NetBackup アップグレードガイド』、『NetBackup スタートガイド』に記載されています。

p.32 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 8.2 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、`/usr/opensv/db/data` (UNIX) または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data` (Windows) のディレクトリを含む

ファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納の詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- マスターサーバーとメディアサーバーでは、**NetBackup** を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を **8000** にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響については、ベリタスのサポート Web サイトの次の **TechNote** を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- **Windows 2008、Vista、2008 R2** の **UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、**UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールできません。
管理者グループのユーザーが **NetBackup** をインストールできるようにするには、**UAC** を無効化します。
- **NetBackup** のマスターサーバーとメディアサーバーは、起動時および **24** 時間ごとに **NetBackup** サーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは **vmd** サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- メディアサーバーのアップグレードの実行中は、マスターサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは **gzip** を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには **gunzip** と **gzip** が必要なので、**NetBackup** をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。**HP-UX** を除くすべての **UNIX** プラットフォームでは、パイナリは **/bin** または **/usr/bin** に存在し、このディレクトリが **root** ユーザーの **PATH** 変数に含まれていると想定されています。**HP-UX** システムでは、**gzip** コマンドおよび **gunzip** コマンドは **/usr/contrib/bin** に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、**PATH** 変数にこのディレクトリが追加されます。**UNIX** でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、[NetBackup 互換性リスト](#)に一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、ベリタス社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 B-1 は、NetBackup 8.2 で必要な OS 更新およびパッチを示しています。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 8.2 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、[Veritas SORT \(Services and Operational Readiness Tools\) Web サイト](#)および [NetBackup 互換性リスト](#)で確認できます。

p.69 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.52 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

メモ: OS ベンダーは、表 B-1 にリストされているパッチよりも優先されるまたはそれに置き換わるより最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。ここおよび SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると考えする必要があります。表 B-1 にリストされているものに優先されるまたはそれらに置き換わる OS 更新、パッチ、またはパッチバンドルは、特に指定されていないかぎりサポートされます。ベリタス社は、個別の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

メモ: 表 B-1 に記載されている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールする必要があります。

表 B-1 NetBackup 8.2 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
AIX 6.1	クライアントのみ	AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降である必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する必要があります場合があります。
Beijing Linx Software Corp Linx OS	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32.26 以降	
CentOS 6.x	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-608.el6 以降	
CentOS 7.x	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-241.el7 以降	
Debian 8	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.16.7-1 以降	詳細情報を参照できます。 Debian 8 リリースノート
HP-UX	クライアントのみ	COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をインストールする場合、このパッチが必要になります。
HP-UX IA-64	クライアントのみ	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
	クライアントのみ	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
	クライアントのみ	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
HP-UX 11.31	メディア	QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバンドル	このパッチバンドルは NetBackup メディアサーバーのサポートに必要です。これは HP-UX March 2010 パッチバンドルです。
Oracle Linux 6	メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-504.14.1 以降	詳細情報を参照できます。 カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新
Oracle Linux 7	メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.1 以降	詳細情報を参照できます。 カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新
Red Hat Enterprise Linux 6	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-504.16.2.el6 以降	詳細情報を参照できます。 Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:0864 - セキュリティアドバイザリ
Red Hat Enterprise Linux 7	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.2.el7 以降	詳細情報を参照できます。 Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:1137 - セキュリティアドバイザリ
SUSE Linux 11	マスター、メディア、クライアント	SUSE Linux Enterprise 11 Service Pack 3 以降	詳細情報を参照できます。 Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2014:1695-1
SUSE Linux 12	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.12.31 以降	詳細情報を参照できます。 Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2015:0068-1
Windows Vista x86-64	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新 (推奨)
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-64	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Windows Server 2008 x86-64 (SP2)	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。
Windows Server 2008 x86-64 R2	マスター、メディア、クライアント	KB2265716	コンピュータがランダムに応答停止する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB982383	ディスク I/O 負荷が大きい状況で I/O パフォーマンスが低下する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB983544	レジストリハイブファイルの「修正日時」ファイル属性の更新。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。

ベリタスでは、Windows オペレーティングシステムで NetBackup を実行する場合は、次の更新をお勧めします。

- Microsoft Storport の Hotfix。この Hotfix は、Windows x86 および x64 の SP1 と SP2 の両方に適用されます (必須)。<http://support.microsoft.com/?id=932755>
- Symantec AntiVirus。最新版と最新アップデートへの更新 (必須)。
- SYMEVENT ドライバの更新 (必須)。最新バージョンのドライバに更新してください。

NetBackup 8.2 のバイナリサイズ

表 B-2 には、NetBackup 8.2 マスターサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が

占有するディスク容量を示します。表にリストされているサイズの場合、1 MB は 1024 KB に相当します。

メモ: 表 B-2 と 表 B-3 には、サポート対象のオペレーティングシステムのみをリストしています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Services and Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトの『インストールとアップグレードのチェックリスト』か『NetBackup オペレーティングシステム互換性リスト』(<http://www.netbackup.com/compatibility>) を参照してください。

p.52 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

表 B-2 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER		1869 MB	サポート終了	
Canonical Ubuntu	x86-64		1339 MB		
CentOS	x86-64		1344 MB	5036 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Debian GNU/Linux	x86-64		1340 MB		
HP-UX	IA-64		2413 MB	サポート終了	
Oracle Linux	x86-64		1345 MB	5749 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER		309 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		1345 MB	5722 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture		1011 MB	2903 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Solaris	SPARC		1377 MB	4771 MB	

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
Solaris	x86-64		1376 MB	5794 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER		333 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		1224 MB	5468 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture		1023 MB	2914 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64		494 MB	2755 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は **Windows** に **NetBackup** をインストールする場合にも適用される場合があります。

- **Windows** システム上のデフォルトではない場所に **NetBackup** をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、[表 B-2](#) にリストされている合計バイナリサイズの **40～50%** になります。
- **NetBackup** サーバーを **Windows** クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、[表 B-2](#) にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの **15～20%** です。

NetBackup OpsCenter

[表 B-3](#) には、**NetBackup OpsCenter 8.2** と互換性がある各種のオペレーティングシステム用の **OpsCenter Agent**、サーバー、および **ViewBuilder** のおよそのバイナリサイズが含まれます。

表 B-3 互換性のあるプラットフォームの **NetBackup OpsCenter** のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Oracle Linux	x86-64		745 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		748 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		752 MB	

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Windows Server	x86-64	261 MB	742 MB	234 MB

NetBackup プラグイン

NetBackup vCenter Web Client プラグインと NetBackup System Center Virtual Machine Manager アドイン用ディスク容量要件は、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』および『NetBackup Add-in for Microsoft SCVMM Console ガイド』にそれぞれ記載されています。



NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.52 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした **Hofix** や **EEB** がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にある Veritas のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

メモ: 相互に互換性のある NetBackup のバージョンについての情報が必要な場合は、互換性リストから[NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)]を選択してください。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

ベリタス社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。ベリタス社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい NetBackup の機能

ベリタス社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

ベリタス社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。ベリタス社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある[NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.52 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 8.2 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『[NetBackup リリースノート](#)』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.11 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

メモ: UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

Veritas は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。ガイドには、NetBackup 8.2 に対して公開されていない他のドキュメントへの参照が記載されている場合があります。このような場合は、使用可能な最新バージョンのガイドを参照してください。特に指定のないかぎり、すべての NetBackup マニュアルは次の場所から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

メモ: Veritas は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

NetBackup 8.2 で公開されたマニュアル

リリースノートと一般的な管理者ガイド:

- NetBackup リリースノート
- NetBackup 管理者ガイド Vol. 1

- NetBackup 管理者ガイド Vol.2

インストール/設定ガイド:

- NetBackup インストールガイド
- NetBackup クイックスタートアップグレードガイド
- NetBackup アップグレードガイド

NetBackup Web UI ガイド:

- NetBackup Web UI バックアップ管理者ガイド
- NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド
- NetBackup Web UI RHV 管理者ガイド
- NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド
- NetBackup Web UI VMware 管理者ガイド

NetBackup オプションガイド:

- NetBackup Add-in for Microsoft SCVMM Console ガイド
- NetBackup クラウド管理者ガイド
- NetBackup 重複排除ガイド
- NetBackup for VMware 管理者ガイド
- NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client
- NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client (HTML5)
- NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド

データベースエージェントガイド:

- NetBackup for MariaDB 管理者ガイド
- NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド
- NetBackup for MySQL 管理者ガイド
- NetBackup for Oracle 管理者ガイド
- NetBackup for OpenStack 管理者ガイド
- NetBackup for Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) 管理者ガイド
- NetBackup for PostgreSQL 管理者ガイド
- NetBackup for SQLite 管理者ガイド

トラブルシューティングガイド:

- NetBackup 状態コードリファレンスガイド

- NetBackup トラブルシューティングガイド

その他のリファレンスガイド:

- NetBackup コマンドリファレンスガイド
- NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド
- NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド
- NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド
- NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド
- NetBackup サードパーティの法的通知